

「太子道」に新説

図書館情報館
千田館長

豪族・秦氏が建設

斑鳩と飛鳥を結ぶ古代の街道「太子道」。聖徳太子が斑鳩宮から通ったとされるこの街道について、県立図書館情報館の千田稔館長が、渡来系の古代豪族・秦氏が造ったとする説を打ち出した。



くに式内社の糸井神社と比売久波(ひめくわ)神社があり、比売久波神社が秦の葉を祭神とするなど、いずれも織物と関わりが深い。

糸井氏は記紀に登場する渡来人アメノヒホコの子孫とされ、秦氏も同じく、アメノヒホ

(いといひめ)とその父親の島垂根(しまたりね)が葬られたとする。

前方部の埋葬施設は県立橿原考古学研究所が調査し、副葬品から被葬者は女性と推定されている。

千田館長は島の山古墳の軸線が西に約20度傾いていることや、秦河勝が聖徳太子の側近だったことに注目。近くを走る太子道もほぼ同じ傾きで、「先祖の墓である島の山古墳を意識し、秦氏が同じ角度で道路を建設したのではないか」とした。秦河勝の建立とされる秦楽寺(田原本町秦庄)も太子道近くに位置している。

太子道は碁盤目状の糸里を斜めに横切るように設けられ、「筋違道(すじかいみち)」とも呼ばれている。



鍵を握るのは川西町の大型前方後円墳「島の山古墳」(4世紀末、墳丘長約200m)。近

コから出たといわれる。秦氏は機織りや養蚕の技術を持っていた。

千田館長は秦氏がが一带を開発し、島の山古墳の築造に深く関わったとみており、応神天皇のきささごな

千田氏が秦氏との関係を指摘する「太子道」三宅町屏風

近くに「恋人の聖地」

三宅道など深い関わり

太子道が通る三宅町は、NPO法人地域活性化支援センターの「恋人の聖地」に認定されている。

万葉集には町の花であるアザサや「三宅道(みやけじ)」を読んだ恋歌があり、三宅道は太子道を指すと千田氏はいう。

千田氏は「太子道の近くに恋人の聖地を置くことは、町の文化施策策として大きな意味がある」と話している。

つた糸井媛